

2024 年度 学修プログラム評価報告書

藤田医科大学医学部

学修プログラム評価委員会

2024 年 9 月 26 日に実施した学修プログラム評価委員会での議論を受け、藤田医科大学医学部の学修プログラム評価について以下のとおり報告する。

昨年度の学修プログラム評価について

1. 教育目標等の改訂について

- ① 「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」、「アドミッションポリシー」の3つのポリシーに従って教学が行われているか評価する尺度を各大学が独自に策定することと、それを実施し公表することを文部科学省は求めているが、「アセスメントポリシー」のアセスメントの対象に、学修環境と資源が入っていないため、今後追加すべきである。

2. 教育課程の変更について

- ① レポート等作成の場面での ChatGPT の利用について、大学として「生成 AI の利活用に関するガイドライン」を作成し周知しているが、最初から AI に頼ってしまうと間違いなどが分からないため、大切なところを押さえるといった教育が必要である。
- ② 1 学年後期に医学研究を体験する「基礎教室体験」、4 学年に臨床研究に関する倫理教育を行う「臨床研究入門」の新設、「医学研究演習」の期間延長の変更など、スチューデントリサーチャープログラム（以下 SRP）の取組みにおいて、リサーチマインド教育を引き続き推進することを期待する。
- ③ SRP のプログラム評価として学会発表数や論文発表数というアウトカムの指標を設定し、それをアセスメントポリシーに加える必要がある。
- ④ SRP 生への学会発表や論文発表等の補助の仕組みを構築したことについては、国際誌への論文掲載は高額のため大変評価できる。

学修プログラム評価の今後について

1. 評価指標について

- ① 本年 5 月の JACME の評価報告書「7.3 学生と卒業生の実績」の改善のための示唆において、入学者の選抜とその後の成績を検討して、入学者選抜をする委員会にフィードバックを提供するプロセスを規定するように求められている。このことから、アセスメント計画書のアドミッションポリシーに基づいた評価を行うための入試選抜の妥当性の項目については、今後、入試の成績や区分とその後の成績や卒業後についての関連性を評価していく必要がある。

- ② 国際バカロレア入試枠は、その後の評価もバカロレア用に策定する必要がある。また、バカロレア入試枠を導入した目的を達成したかどうかを評価基準から考え評価していくことを期待する。
- ③ バカロレア学生は、通常の日本の高校の卒業生とは異なる学力を持っているため、独自のカリキュラムの作成についての検討が必要である。また、バカロレア学生のことを理解しているリテンションスペシャリストを配置し、退学などせずに学内に残っていけるよう支援する必要がある。
- ④ 評価指標の中にボランティア件数等を新たに追加したことから、学生時代からの社会貢献活動を評価していくべきである。

その他

- ① 卒業生の立場から、現在の学生は研究にも参加しようという意思があり評価できる。
- ② 臨床推論やプレゼンテーションの練習の機会が足りないため、PBL I（3 学年後期）と II（4 学年前期）で行う臨床推論をさらに有効活用することが望まれる。また、大学病院で研修している場合、病名がついている患者が多いため、臨床推論を考える機会が少ない可能性がある。このことから、大学病院においても臨床推論能力を向上させるような研修を期待する。
- ③ 1～2 学年は症例発表や臨床研究に触れる機会がないため、臨床の教員と関わる機会を増やすことが望まれる。
- ④ 今の藤田の学生は掘り下げる力や聞く力があまりないという印象である。忙しすぎるからか、丸暗記して患者に対応しようという態度が OSCE でも表れているため、自分で考えて掘り下げることができるような教育を期待する。また、考える力を評価していく必要がある。
- ⑤ 国際バカロレア校のプログラムは一つのことを中心的に行うため、考える力や伝える力が高い。このことから、国際バカロレア出身学生が入学してきた場合は、そのような部分について、患者からの評価を行うべきである。

以上